

## 「イオン 心をつなぐプロジェクト」第2期(2015年度)の活動報告

2012年3月に発足した「イオン 心をつなぐプロジェクト」。2021年までの10年間、イオンの全従業員が経営活動で得た多様な資源を活かして、創造性を発揮し、東日本大震災の復興に貢献することを目指しています。

2015年度から2017年度の第2期は、東北の被災地における社会的課題を「持続可能な地域共同体の再生」と捉え、地域交流の支援活動「イオン 未来共創プログラム」を地域社会と協働して取り組みます。プロジェクトの活動による学びやネットワークが、イオンの「地域産業の活性化」につながるよう進めていきます。

### 「イオン 心をつなぐプロジェクト」10年プロジェクト



### 「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」

#### 第1期の取り組み概要

- 岩手・宮城・福島の沿岸部での植樹活動
- 植樹活動を通じて地域の皆さまと交流し、自然豊かなふるさが復興することを目指す



#### 第2期の取り組み概要

- 東北各地での植樹活動を通じた地域間交流を推進
- 樹木に限らず、果樹や花木を植樹し、産業や観光の振興を支援
- 地域の皆さまの心の拠り所となっている鎮守の森の再生や、津波被害にあった駅前広場への植樹を実施



#### 2016年2月末現在の支援実績

被災地での植樹本数 **146,279本**

2021年度までの支援目標 **300,000本**

### 「被災地へのボランティア派遣」

#### 第1期の取り組み概要

- 2012年度に岩手県陸前高田市、2013年度から福島県南相馬市で活動し、現在も継続
- 多くのイオンピープルが被災地を訪れ、現場を肌身で感じ汗を流しボランティア活動を実施
- 地域の皆さまの想いに寄り添うことができるよう努める



#### 第2期の取り組み概要

- 原発事故による避難生活から、地域再生に向かう福島県浜通りでの活動を通じ、被災地の問題を現場で確認
- 活動を通じ、イオンピープルがそれぞれの社会生活や仕事にこの体験を活かしていく

- これまでの汗を流すボランティア活動から地域との「交流」に重点を置いた活動として取り組んでいく



#### 2016年2月末現在の支援実績

被災地ボランティアに参加した従業員数 **のべ 2,626名**

### 「イオン 未来共創プログラム」

- 東北被災地における社会的課題を「持続可能な地域共同体の再生」と捉え、地域交流型の支援活動「イオン 未来共創プログラム」を被災地\*とグループ各社が共同し取り組む

- ※岩手県、宮城県、福島県の6地域
1. 岩手県釜石市大槌町
  2. 岩手県遠野市米通り
  3. 宮城県気仙沼市大島
  4. 宮城県丸森町
  5. 福島県浪江町二本松
  6. 福島県南相馬市小高



### 「グループ各社が実施するボランティア活動」

#### 第1期の取り組み概要

- グループ各社に「推進責任者」を置き、被災地での現地研修を継続して実施
- グループ各社・労使が各社独自の活動を展開
- 「東北復興マルシェ」の実施やドキュメンタリー映画「うたごころ」の各地での上映などを通じ、プロジェクトのスタートを社内外に発信



#### 第2期の取り組み概要

- グループ各社が東北の復興創生のために、遠方からでもできる支援を継続して推進
- グループ各社が被災地復興創生を自主的・自立的に考え、地域とのつながりを模索し支援を進める



#### 2016年2月末現在の支援実績

各地・各社でのボランティアに参加した従業員数 **のべ 194,102名**

2021年度までの支援目標 **300,000名**

※被災地ボランティア参加の従業員数も含む



## 「にぎわい東北—つなげよう、ふるさとのチカラ」 2015年度の主な東北応援活動

東日本大震災から5年。

イオンは「復興支援」から次のステージの「地域(ふるさと)の創生」を目指し、東北の元気を日本中、世界中につないでいこうと「にぎわい東北」の取り組みをはじめました。“にぎわい”あふれる東北の未来をつくりたいという想いを本テーマにこめ、4つの方針を柱に、これからも東北の創生に向けて皆さまとともに歩んでいきます。

### 東北の創生に向けた4つの方針

- ① 事業を通じた地域産業の活性化
- ② 雇用の創出と働きやすい環境づくり
- ③ 地域の未来を“ともにつくる”  
環境・社会貢献活動
- ④ 安全・安心にくらせるまちづくり

### 1. 事業を通じた地域産業の活性化

東北の生産者の方々とともに地域産品の商品開発に取り組むことに加え、日本各地のお客さまと東北をつなぎ、地域産業の活性化を図ります。

#### 「にぎわい東北フェア」の開催で東北産品の販路を拡大

東北を中心としたグループ企業が、東北産品の販路拡大を目指し、「にぎわい東北フェア」を企画。第一弾として、2016年3月4日～6日、東北・関東地区の合計132店舗で開催しました。



現在の500品目300億円の販売金額を、2018年には2,000品目1,000億円まで拡大することを目指します。

### 2. 雇用の創出と働きやすい環境づくり

被災地域へ出店することで、雇用に創出します。

また、事業所内に保育施設を設置するなど、子育て中の従業員も含め、だれもが働きやすい環境づくりに取り組みます。

#### 「ひろのてらす」にイオン広野店オープン

福島県広野町の公設商業施設「ひろのてらす」内にイオン広野店をオープンしました。地域の事業者の方々が運営する食や生活関連などの専門店4店舗とともに構成される、地域密着のコミュニティ型ショッピングセンターです。



#### 「イオンモール名取」に事業所内保育施設を開設

他地域からの移住などにより、待機児童の増加傾向が見られる名取市の状況を鑑み、2016年秋に「イオンモール名取」に事業所内保育施設「イオンゆめみらい保育園」を開園予定です。今後も、地域の皆さまが安心して働ける環境づくりに努めます。



他地域のイオンゆめみらい保育園の様子

### 3. 地域の未来を“ともにつくる”環境・社会貢献活動

「イオン 心をつなぐプロジェクト」(p.97)の活動など、地域の方々とともに環境・社会貢献活動に取り組み、東北の創生やまちづくり、子どもたちのすやかな成長に寄与していきます。

#### 東北応援「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」

岩手・宮城・福島の被災された方々を、全国のお客さまとともに応援すべく、毎月11日に実施している「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を、毎年3月は9～11日に拡大し実施しています。期間中、お客さまから投函いただいたレシート合計金額の1%を寄付。2016年春までに同キャンペーンを通じて被災地に贈られた累計寄付金額は7億2,600万円にのびります。



#### 「東北復興支援WAON」を通じて子どもたちを支援

2012年5月、ご利用金額の0.1%を岩手・宮城・福島3県の被災された子どもたちの「くらし」と「学び」を応援する育英基金に寄付する、「東北復興支援WAON」を発行。2016年春までに、計1,978万2,027円を寄付しました。



### 4. 安全・安心にくらせるまちづくり

東日本大震災の経験をもとに、防災体制を強化し、安全・安心にくらせるまちづくりを目指します。

#### 防災拠点の拡大

イオンは災害時にショッピングセンターを防災拠点として利用いただけるよう、全国の店舗において、自家発電施設などエネルギー供給体制を確保するなどの安全対策を強化しています。現在27カ所の拠点整備が完了しており、2020年までに100カ所の整備を目指します。